

平成23年度  
実施事業

事務事業名 広報等経費

区分	No	名称
章	6	担いあうまちづくり
節	1	協働のまちづくりの推進
施策	3	協働のまちづくりを支える情報の公開と共有
小分類	1	情報提供と広報広聴活動の充実
主要な施策	2	広報広聴活動の推進
事務事業番号	015	事業開始年度 昭和 26 年度 事業終了年度 平成 - 年度 会計種別 一般会計

部 名	総務部	グループ名	政策推進グループ
-----	-----	-------	----------

事務事業の概要

《Plan・Do》

目的	(事務事業の実施目的を具体的に記入してください)
	市政情報の総合的な提供、市民の声の的確な把握を図ることにより、市民参加によるまちづくりを推進することを目的とする。
事業内容及び実績	(事業内容及び平成23年度の実績を具体的に記入してください)
	<p>市政情報の提供を行うため、広報紙の発行等を行ったほか、市民の声を把握するため、地区懇談会や町内会からの地区課題の聞き取りなどを実施した。</p> <p>【事業実績】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・広報のぼりべつ 毎月発行</li> <li>・市民便利帳 NTT 番号情報(株)との官民共同事業により電話帳との合冊版を制作(平成24年6月発行)</li> <li>・広報モニター 市民8人(広報のぼりべつアンケート評価)</li> <li>・地区懇談会 11地区 出席者数291人 ・地区課題の把握 全94単位町内会等 要望件数135件</li> <li>・市長室フリータイム 3回 参加団体・個人計11組 ・春一の熱血・青春トーク 2回 約400人</li> <li>・市職員出前フリートーク 36回 参加者数1,881人</li> <li>・市民見学会 1回 参加者数8人</li> <li>・三市合同施設見学会(開催市:登別市)参加者数74人(うち登別市民24人)</li> </ul>
今後の方向性	(次年度以降の事業展開における改善など今後の方向性を具体的に記入してください)
	広報モニターや市民の意見を伺いながら、より良い広報紙づくりに努める。また、地区懇談会、市長室フリータイム、春一の熱血・青春トークなど、市民との対話の機会の拡充を進める。
根拠法令等	(事業を実施する際、根拠となる法令・条例・規則・要綱等の名称を全て記入してください)
	登別市広報紙発行規則

事業費(財源内訳)の推移

《Plan・Do》

区分		単位	H22年度 決算	H23年度 決算	H24年度 当初予算	H25年度 見込	H26年度 見込
国庫支出金	名称	千円					
道支出金	名称	千円					
地方債	名称	千円					
その他	名称	千円	1,686	1,984	1,701	1,701	1,701
一般財源	名称	千円	10,305	6,015	8,958	8,958	8,958
事業費合計			11,991	7,999	10,659	10,659	10,659

指標の推移

《Check》

区分		単位	区分	22年度 実績	23年度 実績	24年度 目標	25年度 目標	26年度 目標
成果指標	全世帯に対する広報紙の発行割合 (ホームページ広報紙閲覧件数を含む)	%	目標値	100.0	100.0	100.0	100.0	100.0
			実績値	83.8	83.5			
	広聴活動件数	件	目標値	148	148	148	148	148
			実績値	249	300			

現況		《Check》
現状の状態、問題点、課題等《事業前》	具体的な対策、解決の方向性《事業後》	
<p>(1) 市民便利帳が、財政的事情から平成17年度を最後に全戸配布できず、転入世帯のみの配布に止まっていた。</p> <p>(2) これまでの市民との対話においては、中高年の方に参加が隔たる傾向があり、さまざまな年代の方にも参加いただける場の設定が課題となっていた。</p> <p>市長室フリータイム 年2回開催(平日日中) 春一の熱血・青春トーク 年1回開催</p>	<p>(1) NTT番号情報(株)との官民共同事業により、市の経費負担なく、市民便利帳と電話帳の合冊版を全戸配布することとなり、広く市民に各種行政情報を提供できるようになった。</p> <p>(平成23年度：原稿作成、平成24年6月：発行)</p> <p>(2) 市民と市長との対話の場である市長室フリータイムにおいて、学生や仕事をしている方の参加を考慮し、開催回数の増や平日夜間・土曜日開催の導入を行った。</p> <p>また、学生の斬新な発想や意見をまちづくりの参考とするため開催している、日本工学院北海道専門学校学生と市長との意見交換会『春一の熱血・青春トーク』において、学生の意見によりじっくり耳を傾けるため、開催回数を増を行った。</p> <p>市長室フリータイム 年3回開催(平日日中・夜間、土曜日日中) 平日夜間は、募集したが参加者無し。 春一の熱血・青春トーク 年2回開催</p>	

担当グループによる事務事業評価の内容(複数回答可)		《Check》
<b>1. 事務事業の妥当性について</b>		
市が事業主体として実施していくべき妥当性の高い事業ですか?	<p>市が主体に行うべき事業である</p> <p>民間(事業者、市民団体等)でも実施可能である</p> <p>国、道、他団体等との連携や広域化が可能である</p> <p>国、道、民間等の事業と重複・類似している</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>市民生活に関する情報の提供や市民の行政に対する意見の把握は、市政運営に直結する重要な業務である。</p>
<b>2. 事務事業の必要性について</b>		
市民ニーズの状況等から勘案して、必要性の高い事業ですか?	<p>市民、団体等から具体的な要望がある</p> <p>市民アンケートの結果から必要性が高い</p> <p>社会情勢、地域事情等から必要性が高い</p> <p>市民の大部分が関連することから必要性が高い</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>平成23年度に実施した『市民ニーズアンケート調査』における、8割以上の方が広報紙で市政情報の収集を行っているとの結果からも、本事務事業の必要性は高い。</p>
<b>3. 事務事業の効率性について</b>		
事業内容とコスト(事業費)のバランスがよい効率性の高い事業ですか?	<p>低予算、少労力で高い効果をあげている</p> <p>市で実施するほうが民間委託より効率性が高い</p> <p>多額の経費や労力を要するがやむを得ない</p> <p>将来的に効率性を向上できる</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>経費の大部分は広報紙の印刷製本費であるが、発行頻度や部数などから削減は難しい。また、広聴においては、さまざまな場において、市長をはじめ職員が市民の生の声を直接聴取することも重要である。</p>
<b>4. 事務事業の成果について</b>		
目的を達成するための成果はあがっていますか?	<p>成果指標の向上が見られる</p> <p>市民、団体等の声から成果を感じられる</p> <p>目に見える形で成果があがっている</p> <p>成果の把握は困難である</p>	<p>判断理由及びその他所見</p> <p>広報モニターや市民からの意見を参考に、随時、広報紙の紙面の改善に努めているほか、市民との対話の場を通して、市民から市政に関するさまざまな意見が寄せられ、市政運営の参考となっている。</p>

担当グループによる評価		《Check》
<b>維持</b>	<p>左記の評価を選択した具体的な理由(根拠)</p> <p>協働のまちづくりを進めるためには、広報広聴体制の整備を図り、市民と行政が情報を共有することが不可欠である。</p>	

行政評価会議による評価		《Check》
<b>維持</b>	備考	